

標準委員会 第40回リスク専門部会議事録

1. 日 時 2016年11月24日（木） 9:35～13:10

2. 場 所 5 東洋海事ビル D 会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）山口部会長(途中から入室), 成宮幹事, 青木, 阿部, 井田, 糸井, 岡本(途中から入室), 北村, 桐本, 倉本, 栗坂, 曾根田, 高橋, 武部, 中田, 丸山, 村田(途中から退室), 吉田 (18名)

（代理委員）山中勝（日本原子力発電／鈴木）, 岩谷康宏（中部電力／竹山）, 藤井正彦（東芝／中田）, (3名)

（欠席委員）山本副部会長, ウディ, 越塚, 丸山 (4名)

（常時参加者）野村 (1名)

（欠席常時参加者）鈴木, 菅谷, 堀田 (3名)

（説明者）【外的事象PRA分科会】桐本幹事, 【リスク専門部会】成宮幹事, 倉本委員, 野村常時参加者, 【JIWGステアリングチーム】村田リーダー, 成宮, 【核燃料施設リスク評価分科会】村松主査, 吉田副主査, 眞部幹事, 高橋常時参加者, 【レベル2PRA分科会】成宮副主査, 中村幹事, 【レベル3PRA分科会】成宮幹事, 野村常時参加者, 【リスク専門部会】成宮幹事, 倉本委員, 【PRA活用検討タスク】成宮世話役 (延べ17名)

（事務局）中越, 井関, 谷井 (3名)

4. 配付資料

RKTC40-0 第40回リスク専門部会 議事次第

RKTC40-1 第39回リスク専門部会 議事録 (案)

RKTC40-2 人事について

RKTC40-3 “原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X” 改定案の標準委員会決議投票で受付けた意見への対応表

RKTC40-3 添付

“原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201*”

RKTC40-3-2 差し替え資料

RKTC40-4 第66回標準委員会決定に基づく用語辞典の見直しについて (依頼) に対する報告結果

RKTC40-5-1 ASME JCNRM 参加報告

RKTC40-5-2 ASME JIWG第1回会合報告

RKTC40-5-3 JCNRMとの窓口及び今後議論したいテーマ

RKTC40-5-4 JIWGメンバー名簿

RKTC40-6-1 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）201X” 改定案の公衆審査結果

RKTC40-6-1 別紙

公衆審査コメント 回答案

- RKTC40-6-2 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）：201X”改定案の誤記チェック結果
- RKTC40-7 「核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*」策定に関する本報告
- RKTC40-8 外的事象レベル2PRAの検討進捗
- RKTC40-9 PRA標準の階層化について
- RKTC40-10 第2回アジアPSAワークショップの日本開催について
- RKTC40-11 標準委員会の標準策定5カ年計画の更新について
- RKTC40-12 2017春の年会 企画セッションの相談
- RKTC40-12別紙
2017年春の年会（3/27-29）企画セッション提案書
- RKTC40-13 2016年度、2017年度の講習会計画
- RKTC40-14 分科会・作業会の活動状況について
- RKTC40-15 標準の概要（英語版）の作成について（依頼）
- RKTC40-16 リスク専門部会委員名簿 分科会・作業会 倫理教育2016年度受実績
参考資料
- RKTC40-参考1 リスク専門部会委員名簿
- RKTC40-参考2 標準委員会の活動状況
- RKTC40-参考3 第20回PRA活用検討タスク議事録

5. 議事内容

(3)以降の議事は、委員25名中、17名以上の出席があり、委員会成立に必要な委員数（17名）を満足していたため審議及び報告を実施したが、(1)及び(2)の議事は17名に達していなかったため実施可能な報告をおこなった。

(1) 【報告】第66回標準委員会決定に基づく用語辞典の見直しについて（依頼）に対する報告結果について(RKTC40-4)

リスク専門部会の成宮幹事、野村常時参加者からRKTC40-4に基づいて、第66回標準委員会決定に基づく用語辞典の見直しについて（依頼）に対する報告結果について報告があった。

主な質疑等は以下のとおり。

Q:リスク専門部会で制定している共通用語の定義標準の扱いはどうなるのか。

A:これまでと変わらない。今回標準委員会で作成している用語辞典については、各PRA標準の引用規格ではなく、必要に応じて参照することになる。

(2) 【報告】ASME JCNRM/JIWGの報告（RKTC40-5-1, RKTC40-5-2, RKTC40-5-3, RKTC40-5-4）

JIWG ステアリングチームの村田リーダー、成宮氏から RKTC40-5-1, RKTC40-5-2, RKTC40-5-3, RKTC40-5-4 に基づいて、ASME JCNRM/JIWG について報告があった後、メールで報告内容について、意見募集を行うこととなった。

(3) 前回議事録（案）について（RKTC40-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(4) 人事について (RKTC40-2)

事務局から RKTC40-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり確認及び審議を行った。

1) 専門部会

① 委員の再任決議

高田 毅士 (東京大学)

丸山 結 (日本原子力研究開発機構)

山本 章夫 (名古屋大学)

委員の再任が決議された。

2) 分科会

① 委員退任の確認

【レベル 3PRA 分科会】

山中 康慎 (東京電力ホールディングス)

【PRA 品質確保分科会】

上良 直弘 (日本原子力発電)

竹下 明 (中部電力)

山内 景介 (東京電力ホールディングス)

② 委員選任の承認決議

【レベル 3PRA 分科会】

喜多 利亘 (東京電力ホールディングス)

【PRA 品質確保分科会】

岩谷 泰広 (中部電力)

浦野 渡瑠 (日本原子力発電)

喜多 利亘 (東京電力ホールディングス)

日高 一誠 (テプコシステムズ)

③ 委員の所属変更の確認

【外的事象 PRA 分科会】

橋本 和典

旧 原子力安全推進協会

新 電力中央研究所

④ 常時参加者の登録解除の確認

【レベル 1PRA 分科会】

東山 陽 (原電エンジニアリング)

藤田 新作 (東北電力)

柏木 智仁 (原子力規制庁)

【PRA 品質確保分科会】

大類 馨 (原子力規制庁)

【外的事象 PRA 分科会】

野村 治宏 (関西電力)

前田 圭祐 (テプコシステムズ)

⑤ 常時参加者の登録承認の確認

【レベル 1PRA 分科会】

佐竹 祥宏（東北電力）

【PRA 品質確保分科会】

野村 治宏（関西電力）

【外的事象 PRA 分科会】

倉本 孝弘（原子力エンジニアリング）

林 健太郎（関西電力）

松中 修平（テプコシステムズ）

⑥ 常時参加者の所属変更の確認

【レベル 1PRA 分科会】

友澤 孝司

旧 四国電力

新 電力中央研究所

委員退任等が確認され、審議の結果、委員選任の承認が決議された。

山口部会長の任期は 2016.11 月末までのため、部会長の互選投票を行った結果、山口氏は 19 票、山本氏 1 票で、山口氏が部会長に選任された。山口部会長の選任に伴い、副部会長に山本氏が指名され、幹事に成宮氏が指名された。

(5) 【報告・審議】“原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の標準委員会決議投票で受付けた意見への対応について（RKTC40-3, RKTC40-3 添付, RKTC40-3-2）

外的事象 PRA 分科会の桐本幹事から RKTC40-3, RKTC40-3 添付, RKTC40-3-2 に基づいて、“原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の標準委員会決議投票で受付けた意見への対応案について報告があった。審議の結果、対応案は編集上の修正であること及び対応案を標準委員会で報告することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

C:「福島第一発電所事故」は「東京電力福島第一発電所事故」でなくてはいけいではないか。

A:「福島事故」という呼び方が適切でないというものであり、「福島第一発電所事故」と表記している。改定前の標準発行時にもその確認はあり、今回と同様の記載となっている。

Q:改定と改訂か両方記載があるが統一は必要ないか

A:標準自体を改定する場合は「改定」、記載事項を「変更/修正」は(Revision としている)「改訂」として書き分けて記載している。地震 PRA も同様の記載。

Q:"格納容器機能"のコメントに対しては変更なしでよいか。

A:用語集の記載も"格納容器機能喪失"であるため、"格納容器機能"と言う記載にも問題はな

いと考える。

Q:誤記チェックは行うか

A:作業会内でのチェック/修正や、外的事象 PRA 分科会等でのコメントは、改訂コメント表で整理し、前回の最終報告等でも提出されてきた。一方で正式な標準委員会での誤記チェックについては、他標準で用いられているフォーマットに従い、標準委員会での公衆審査への承認を受けた最終版に対して改めて実施を行う予定である。

(6) 【報告・審議】“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：

201X”改定案の公衆審査結果及び誤記チェック結果について（RKTC40-6-1, RKTC40-6-2）

事務局から RKTC40-6-1 に基づいて、“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X”改定案の公衆審査の結果、1 件の意見があったことが報告され、その回答案について審議し、本日のコメントを反映の上、標準委員会に諮ることとなった。引き続き、レベル 3PRA 分科会の成宮幹事及び野村常時参加者から RKTC40-6-2 に基づいて、“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X”改定案の誤記チェック結果について報告があり、審議の結果、修正は編集上の修正であることが確認され、標準委員会に報告することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

（公衆審査結果）

C:第3パラグラフについて、活用の最適な方法が確立していないから活用ができないわけではないので、当該記載を削除すること。

A:拝承。

C:最終パラグラフのガイドラインについて、公衆審査のコメント者は学会のガイドラインについて言及しているのではなく、自治体のガイドラインについて言及している可能性があるのではないかと。

C:加えて、標準委員会としてどの程度関与していくかの議論もあるため、回答としては「原子力学会員の協力を奨励します。」くらいが良いのではないかと。

A:拝承。

（誤記チェック結果）

C:「安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって」は改定版が出ている。

C:同じ箇所についてのコメントだが、制定日と最終改定日が併記されているが、標準策定時に参照した版の日付だけを記載すればよい。

A:拝承。本文中に同様の記載としている文献があるので、合わせて修正する。

(7) 【本報告・審議】“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201X”の本報告について（RKTC40-7）

核燃料施設リスク評価分科会の村松主査、吉田副主査、眞部幹事、高橋常時参加者から RKTC40-7 に基づいて、“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”について本報告があった。審議の結果、決議投票へ移行することが満場一致で決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

Q:地震リスク評価で、[解説 6.地震動強さに下限を設けない理由]は、何を述べているのか？

A:核燃料施設では、発電用原子炉施設と違って耐震 B、C クラス機器の損傷の考慮の有無が結果に影響する場合があるので、その考慮の必要性や耐震 B、C クラス機器の耐力に保守的仮定を用いる場合の考え方を記載している。

Q:再処理施設は化学工場なので、火災・爆発が最も重要と思うがそれらは考慮しているか？

A:プロセスの中で想定される火災・爆発は考慮している。ただし、本実施基準では外的事象は地震のみを扱うこととしているので、発電用原子炉施設の火災 PRA で扱うタイプの一般火災は考慮していない。

(8) 【報告】外的事象レベル 2PRA の検討進捗について（RKTC40-8）

レベル 2PRA 分科会の成宮副主査、中村幹事から RKTC40-8 に基づいて、外的事象レベル 2PRA の標準作成の方針の検討結果について報告があり、RKTC40-8 に対する意見募集を行うこととなった。

(9)【報告】PRA標準の階層化について (RKTC40-9)

リスク専門部会の成宮幹事，倉本委員からRKTC40-9に基づいて，PRA標準の階層化についてについて報告があり，RKTC40-9に対する意見募集を行うこととなった。

(10)【報告】第2回アジアPSAワークショップの日本開催について (RKTC40-10)

PRA活用検討タスクの成宮世話役からRKTC40-10に基づいて，第2回アジアPSAワークショップが2017年秋に日本で開催されるとの報告があった。

(11)その他

- ・次回のリスク専門部会は，2017年2月22日(水)午後開催となった。

以上